

## 韓国語における受身形式の機能的特徴

—比較・対照の観点から—

白 明学 (名古屋大学大学院)

### 要 旨

韓国語には受身文に用いられる複数の形式がある。本稿では、この形式の違いが構文のタイプとどのように関係しているのかを考察した。<脱他動化>タイプに用いられる形式は「-i-, -hi-, -li-, -ki-」、「ci-ta」、「toy-ta」であり、<被動者主役化>タイプと「持ち主の受身」に用いられる形式は「-i-, -hi-, -li-, -ki-」、「pat-ta」、「tangha-ta」であることを検証し、その特徴を示す。また、動作主マーカーに注目し、「なる」の意味を持つ「ci-ta」、「toy-ta」形式が用いられる場合、主語の有情性に関係なく、無標の動作主マーカーとして「-e uyhe」が選ばれ、<脱他動化>タイプになるということを示す。さらに、比較・対照の観点から、韓国語の持ち主の受身を中心に次のような一般化を試みる。i) 主題を表すための接辞「ハ-/nun」のある言語は間接受身を許容する。ii) 受身用法と自動詞用法が曖昧になっている言語は、中立叙述的なく脱他動化>タイプが受身文の中心となる。iii) <脱他動化>タイプ受身文中心の言語は、「迷惑の受身」を許容しない。

### 1. はじめに

従来の研究において韓国語の受身の研究は、受身文に用いられる形式が受身としての条件を満たしているかどうかといった観点からの議論が中心になっている。形式上の条件を十分満たしているとは言えないが<sup>1</sup>、しかし、韓国語には以下のようなタイプの受身文が存在する。

1) 현관으로 이어지는 돌바닥 오른쪽으로	화단이	만들어져 있었다.
Hyeonkwan-uro .....	hwatan-i	mantuleo-ci-eo isseoss-ta
玄関口に続く石畳の右側には	花壇が	作られていた。（由熙）
2) 철수가 개한테 헤기다		
Cheolsu-ka kay-hanthe	ccot-ki-ta	
太郎が 犬に 追いかけられる		
3) 철수는 선생님한테 술을 押収 당했다		
Cheolsu-nun seonsayngnim-hanthe sul-ul	apsu-tangha-yeoss-ta	
太郎は 先生に お酒を 押収された		

上記の例はそれぞれ、1) が「無生物主語受身文」、2) が「直接受身文」、3) が「持ち主の受身文」と呼ばれるタイプの構文である。これらの構文で用いられている受身形式は単一ではなく、「ci-ta」「-ki-」「tangha-ta」のように複数の形式が使われている。本稿では、まず、受身形式の違いが構文のタイプとどのように関係しているのかを第2節と第3節で考察する。その

<sup>1</sup> 韓国語の受身形式は、固有語動詞には「-i-, -hi-, -li-, -ki-」「ci-ta」が、漢語動詞には「toy-ta」「pat-ta」「tangha-ta」が用いられ、これらすべてを受身形式として認めるかどうかについては、議論が多い。本稿では細部の議論に立ち入らず、上のすべてを受身形式とする立場をとる。

際、志波（2004）<sup>2</sup>で提案されている受身文のタイプを以下のように捉え直し、受身形式と動作主マーカーという観点から考察していくことにする。

脱他動化タイプ受身	動作主なし受身、表出の際は、動作主マーカー「-e uyhe(によって)」のみ許容	
被動者主役化タイプ受身	有情主語で動作主あり受身：動作主マーカー「-hanthe(に)」	
間接受身	持ち主の受身	動詞の語幹が表す行為の直接の対象ではないものが主語となる受身
	迷惑の受身	

続く、第4節と第5節では、韓国語の持ち主の受身文を中心にして他言語との比較・対照を行い、そこから得られた結果をもとに類型的観点からの一般化を試みる。

## 2. 受身形式から見た特徴

志波（2004）における＜被動者主役化＞タイプ<sup>3</sup>とは、「話し手が典型的に被動者の立場から当該の事態を叙述するための受身文」で、＜脱他動化＞タイプ<sup>4</sup>とは、「本来他動的な事態であるものを自動詞的な捉え方に持ち込むための受身文で、事態参与者（行為者）が1つ減るのが特徴」であるとされている。ここで、この2つのタイプが韓国語では、どのように実現されるのかが問題となる。上述のように、韓国語には日本語あるいは印欧語の受身文に対応する単一の形式は存在しないので、以下では、韓国語における受身の形式をもとに考察していくことにする。

### 2.1 「-i-, -hi-, -li-, -ki-」による受身文

- 4) **키요미가** 사자한테 **잡아먹혀도** 상관없어....  
 kiyomi-ka saca-hanthe capameok-*hi*-eoto sangkwan....  
 紀代美が ライオンに 食べられてしまうっちゅうことは... (彗星)
- 5) **타이는** 이를 앙다물어가며 맞기도 하고 **걸어차이기도 하며,**  
 Thai-nun i-rul angtamuleokamyeo..... keoteocha-*i*-kito hamyeo  
 泰ちゃんは、……、ぶたれたり、 けっとばされたりしたから、 (トット)

<sup>2</sup> 志波（2004）では通言語的現象として、受身文と呼ばれる構文には、以下のような2種類の主要なタイプがあると提案されている。

＜被動者主役化＞タイプ：有情主語で動作主あり受身：日本語の固有の受身の中心的タイプ

＜脱他動化＞タイプ：非情主語で動作主なし受身：日本語の非固有の受身

上の分類をもとに、自動詞ベースの受身である「はた迷惑の受身」を有する日本語の受身は、＜被動者主役化＞タイプを中心に発達したものであり、非人称受身を有するロマンス諸語などの受身は、＜脱他動化＞タイプを中心に発達したものであるとしている。しかし、周知のように、韓国語は「はた迷惑の受身」も「非人称受身」も持たない言語であるので、本稿では通時的变化に関する問題は対象外とする。

<sup>3</sup> 日本語には、有情主語の受身文の方が非情主語受身文より圧倒的に多く、日本語固有の受身のほとんどが＜被動者主役化＞タイプに属すると述べられている。

<sup>4</sup> 現代ロマンス諸語には、ラテン語の翻訳以外には＜被動者主役化＞タイプの受身文が存在しないのに對し、非情物が主語となる＜脱他動化＞タイプは用いられているとされている。

- 6) 작은 난로 옆에 **[이불이]** 깔려 있다  
 cakun nallo yeop-e ipul-i kkal-li-eoss-ta  
 小さなやぐら炬燵の横に**布団が** 敷かれていた。 (とかげ)
- 7) 그의 졸업을 축하하는 **[파티가]** 우메다 중화요리점에서 열렸다  
 ..... phathi-ka umeda cunghwayoliceom-eso yeol-li-eoss-ta  
 彼の卒業を祝う**パーティーが**, 梅田の中華料理店で 行われた (彗星)
- 8) 철선에 **[옷이]** 걸려 찢기기 일쑤였다  
 choelseon-e os-i keol-li-eo ccit-ki-ki ilsu-yeoss-ta  
 鉄線に **服が** ひつかかって, 破けてしまうのだった (トット)
- 9) 덕분에 한 구간 전에 **[문이]** 열렸을 때 올라타려던 한 아줌마는  
 ..... mun-i yeol-li-eossul ttay ollatha .....  
 1つ前の駅で, **ドアが** 開いた とき, 乗りこもうとしたおばさんは (トット)

まず、例 4), 5) は、「카요미 (紀代美)」「타이 (泰ちゃん)」のように有情者が主語になり、そのものの立場から事態が述べられているもので、<被動者主役化>タイプである。つまり、動作主の積極的な働きかけにより、主語に立つ者が自らの意志と関係なくその行為をまともに受けているという意味を表す文である。動作主マーカーに、例 4) の「saca-hanthe」「ライオンに」のように、「-hanthe」「～に」が用いられるという特徴もみられる。

例 6), 7) は、非情物が主語になり、動作主は背景化しているもので、<脱他動化>タイプである。このタイプの意味的特徴は、「誰がやったか」よりも、「何が起こったか」に焦点をあてることによる、中立叙述機能を持つことである<sup>5</sup>。動作主マーカーに「～によって」が用いられる文で、いわゆる非固有の受身とされる文である。上の例文で省略されている動作主を補つて再構成してみると、

- 7') 그의 졸업을 축하하는 **[파티가]** (친구들에 의해) 열렸다  
 ..... phathi-ka (cinkutul-e uyhe) yeol-li-eoss-ta  
 彼の卒業を祝う **パーティーが**, (友達によつて) 行われた

のように、韓国語においても日本語の「～によって」と同様の意味を持つ「-e uyhe」が用いられるという共通点がみられる。

最後に、例 8), 9) は受身形式の「-ki-」「-li-」が使われてはいるが、対応する日本語の方はいずれも自動詞文になっている。すなわち、「破かれる・開けられる」という受身と、「破ける・開く」という自動詞が、韓国語では形態上の区別がなく、「ccit-ki-ta (破かれる・破ける)」、「yeol-li-ta (開けられる・開く)」のように用いられ、受身用法と自動詞化用法が曖昧になっている。これは動詞の形態によって、受身文なのか自動詞文なのかが決まる日本語と違って、韓国語の方はその意味・語用論的特徴まで考慮に入れなければならないことを意味している。

<sup>5</sup> 志波 (2004)。

## 2.2 「ci-ta」による受身文

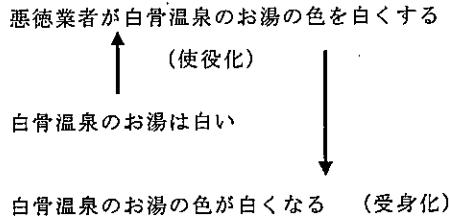
- 10) 이 반복은 20년이 지난 지금도 어김없이 지켜지고 있는 모양이다.  
 i panpok-un 20nyeon-i cinan ... ... cikhieo-ci-ko issnun moyang-it  
 このローテーションは二十年経った今でもきちんと守られているようだ。 (家族)
- 11) 담장 대신에 여러 종류의 나무가 심어져 있었고  
 tamcang..... namu-ka simeo-ci-eo issko  
 壁のかわりに、色々な種類の木が植わっていて、(トット)
- 12) 지금까지 전혀 생각도 못했던 불안이 가슴에 펼쳐졌다.  
 cikum-kkaci.... pulan-i kasum-e pheolchieo-ci-eoss-ta  
 それまで考えもしなかった不安が 胸に ひろがってきた。 (彗星)
- 13) 시라호네온천의 물색같이 하얘졌다  
 sirahone oncheon-uy mulsaykkal-i hae-ci-eoss-ta  
 白骨温泉の お湯の色が 白くなつた

「ci-ta」による韓国語の受身文は、まず例 10) のように動作主は背景化し表示されないか、または表出の際は「kacoku-e uyhe (家族によって)」のように動作主マーカーに「-e uyhe (によって)」のみを許容し、そして主語となるものも大概非情物である。有情物が主語となるケースについては、次節で言及する。また、この構文で用いられている韓国語動詞の特徴は、「mantul-ta (作る)」や「cikhi-ta (守る)」や khui-ta (育てる)」などのように、比較的動作性の強い他動詞でありながら、対応する自動詞をもたない<sup>6</sup>という点である。したがって、この「ci-ta」による受身文は、自動詞の欠如を補うために用いられる形式であると考えられる。

次に、日本語との対照の観点からみると、例 11), 12) のように「ci-ta」による受身も、前述の「-i-, -hi-, -li-, -ki-」と同様に、「植えられる／植わる」や「広げられる／広がる」のような形態上の区別がなく、受身用法と自動詞化用法の区別が曖昧である。しかし、いずれにしても、非情物が主語になること、また動作主は背景化され、主語に起きた変化に重点が置かれているという点では、<脱他動化>タイプであるといえよう。というのは、主語が何をされたかに焦点が当たられるような状況、たとえば「太郎は花子に自分の庭に木を植えられた」のような受身文は、「ci-ta」形式を用いた受身文としては成立しないからである。

最後に、韓国語の受身形式「ci-ta」に関するもう1つの問題は、例 13) の日本語訳からも明らかのように、「ci-ta」という形式が動詞のみならず形容詞にも後接するという点である。これらの例のもの文は、例えば「白骨温泉のお湯の色は白い」のような形容詞述語文で、いわゆる一項述語文であるので、ここからさらに事態参与者が1つ減るような文を作るということは、一般的には考えられない。しかし、上記の例と対立する文を「悪徳業者が（入浴剤で）白骨温泉のお湯の色を白くする」というように想定できるのであれば、以下のような対立関係を見出すことができる。

<sup>6</sup> 無対他動詞とも呼ばれる。一方「かける一かかる」「つかまる一つかまる」「あける一あく」のように、対応する自動詞を持つ他動詞は「有対他動詞」と呼ばれる。



以上のように、「使役 vs 受身」として想定すると事態参与者が1つ減り、非情物主語に起きた状態の変化を捉える文として解釈でき、広い意味での<脱他動化>タイプとして考えることができると思う。

## 2.3 「toy-ta, pat-ta, tangha-ta」による受身文

### 2.3.1 「toy-ta」

- 14) 덕분에 **우리들은**... 산을 내려가야만 하는 생활에서 **해방된** 것이다.  
 ..... ulitul-un..... .... .... .... .... haypang-*toy*-n keos-ita  
 そのおかげで**我々は**, ...山を降りてゆく一という生活から**解放された**わけです。 (火車)
- 15) 성추행 혐의로 **체포되었던** **경관이** **석방되었다**.  
 Seongchuhayeng hyeomuy-lo chepho-*toy*-eoss-teon keongkwan-i seopang-*toy*-eoss-ta  
 ワイセツ容疑で **逮捕されていた** **警官が** **釈放された**
- 16) **영어는** 적국의 언어라는 이유로 모든 학교 수업에서 **제거되었다**  
 yeongeo-nun ceokkuk-uy..... .... .... payce-*toy*-eoss-ta  
 英語は, 敵国の言葉ということで, すべての学校の授業から**はずされた** (トット)
- 17) 태평양에서 새 **섬이** **발견되었다**  
 .... .... seom-i palkyeon-*toy*-eoss-ta  
 太平洋で新しい**島が** **発見された**

上記の例は14), 15)が有情主語の文、例16), 17)が非情主語の文であるが、主語の有情性と関係なく広く用いられることがこの「toy-ta」受身文の特徴である。これはその意味の「中立性」に起因しているからであると考えられる。つまり、主語の有情性に関係なく中立的な解釈を受けるのは、その本動詞としての意味と深く関係している。

- 18) 얼음이 물이 **되다**  
 eolum-i mul-i *toy*-ta  
 氷が水**になる**。  
 19) 밥 **했어요?** Pap *toy*-eoss-eoyo?  
 ご飯**できた**?

本動詞としての「toy-ta」は、「なる」や「できる」といった意味で、状態の変化または変化の

結果を表す自動詞である。故に、受身形式としての「toy-ta」も主語に起きた自然な変化による受動的状況を表すような場面で主に用いられる。しかし、強制や被害を表すような場面では、「toy-ta」は一般的には用いられず、「pat-ta, tangha-ta」が用いられる傾向がある。

- 20) 철수가      부하한테      (\*협박되었다)      / 협박당했다      / 협박받았다)  
 Cheoksu-ka    puha-hanthe      hyeoppak-*toy-eooss-ta*/*tangha-yeooss-ta*/ *pat-ass-ta*  
 太郎が          部下に          脅迫された

以上のことから、この「toy-ta」受身文は、有情主語の文の場合でも動作主が事態の成立に積極的に関与している状況を表しているというよりは、主語に起こった変化に焦点を当て、事態を中立的に描写していることから<脱他動化>タイプとして捉えることができると考えられる。

### 2.3.2 「pat-ta, tangha-ta」

- 21) 나는 한번 일본인 결혼식에 초대받아  
 na-nun..... ....chotay-*pat-a*  
 ぼくは、一度、日本人の結婚式に 招待されて、 (彗星)
- 22) 토토는 막부 관리에게 아무리 추궁당해도  
 thotho-nun..... .... amuli chukung-*tangha-yeoto*  
 トットちゃんは幕府の人に どんなに 追及されても (トット)
- 23) (보라쥬는) . . . 라고 높이 평가되어 석사과정 졸업을 認定받았다  
 (poracu-nun) .... ....seoksakwaceong coleop-ul inceong-*pat-ass-ta*  
 (ボラージュは)... と高く評価され、修士課程の卒業を認められた。 (彗星)
- 24) 철수는 선생님한테 술을 押収당했다  
 cheolsu-nun seonsayngnim-hanthe sul-ul apsu-*tangha-yeooss-ta*  
 太郎は 先生に お酒を 押収された

上の例からも窺えるように、「toy-ta」受身文が有情主語と非情主語の両方を許容するのに対し、「pat-ta, tangha-ta」受身文は、主語として有情者だけを許容するという特性をもつ。また、意味的にも、被動者が動作主の行為によって利害を被るという意味を表すケースが大多数であるが、これは「pat-ta, tangha-ta」の動詞としての意味を継承しているからであると考えられる。つまり、「pat-ta」の動詞としての意味は「もらう」や「受け取る」などで、外部から与えられたものを受け入れるということを表し、「tangha-ta」は、ある状況に非能動的に「直面する」といった意味を表す。これらが受身形式として用いられる場合も、その意味内容が受け継がれていると考えられる。

したがって、「pat-ta, tangha-ta」受身文は、有情者が主語になり、その被動者の被る影響を述べる文であると捉えることができ、この形式は例 21), 22) のように<被動者主役化>タイプにも例 23), 24) のように持ち主の受身にも用いられる。

### 3. 動作主マーカーによる考察

以上、受身形式の違いが構文のタイプにどのように反映されているのかをみてきた。本節では、有情主語文における動作主の表れ方が、韓国語の受身形式と構文のタイプにどのように関係しているのかを中心に考察する。ただし、無情物主語文については、一般的に動作主の有情性と関係なく、そのマーカーとして「-e uyhe (によって)<sup>7</sup>」が用いられるので、本稿では割愛する。

4')	<b>기요미가</b>	<b>【사자한테／*에 의해】</b>	<b>잡아먹히다</b>
	kiyomi-ka	saca-hanthe/e uyhe	cabameok-hi-ta
	<b>紀代美が</b>	ライオンに／*によって	<u>食べられる</u>
25)	<b>아이들은</b>	<b>【엄마*한테／에 의해】</b>	<b>지켜진다</b>
	Aitul-un	eomma-hanthe/e uyhe	cikhieo-ci-n-ta
	<b>子供は</b>	お母さんに／*によって	<u>守られている</u>
26)	<b>그가</b>	<b>【멤버들*한테／에 의해】</b>	<b>위원장으로 選出되었다</b>
	ku-ga	meompeotul-hanthe/e uyhe	wiwoncang-uro seonchul-toy-eoss-ta
	<b>彼が</b>	メンバーに／*によって	<u>選出された</u>
27)	<b>김선생님은</b>	<b>【학생들한테／*에 의해】</b>	<b>존경받고 있다</b>
	KIM seonsayngnim-un	haksayngtul-hanthe/e uyhe	congkyeong-pat-koiss-ta
	<b>キム先生は</b>	学生に／*によって	<u>尊敬されている</u>
24')	<b>철수는</b>	<b>【선생님한테／*에 의해】</b>	<b>술을 押収당했다</b>
	cheolsu-nun	seonsengnim-hanthe/e uyhe	sul-ul apsu-tangha-yeoss-ta
	<b>太郎は</b>	先生に／*によって	<u>押収された</u>

以上のように、上の例はすべて有情物主語の構文であるにもかかわらず、動作主マーカーの表れ方には、受身形式間の相違が見られる。即ち、「-i-, -hi-, -li-, -ki-」と「pat-ta, tangha-ta」受身においては、「-hanthe」が無標のマーカーとして用いられるが、「ci-ta」と「toy-ta」の方は「-e uyhe」のみが用いられる。これは、「ci-ta」「toy-ta」受身文は有情主語受身文であっても、動作主の積極的な働きかけを表しているというよりは、主語に起きた変化に焦点をあて、中立的な立場から当該の事態を叙述するという<脱他動化タイプ>として捉えることができるということを反映しているためだといえよう<sup>8</sup>。例 25) と似た以下の例との対照から確認してみよう。

28)	<b>데모대가</b>	<b>【경찰*한테／??에 의해】</b>	<b>지켜진다</b>
	demothay-ka	kyeongchal-hanthe/e uhe	cikhieo-ci-n-ta

<sup>7</sup> 日本語の動作主マーカー「-に」に当たる韓国語のマーカーには、上記の「-hanthe」以外にも、「-e」「-eke」が用いられる。本稿ではこれらのマーカーを「-hanthe」の異形態とする立場をとる。

<sup>8</sup> この構文の場合、日本語の方は、動作主マーカーとして「-に、 -によって」の両方を許容するのに対し、韓国語では「-e uyhe」のみが許容されるという言語間の違いが存在する。

<sup>9</sup> 「toy-ta」受身文の中には、「**철수가 경찰한테 체포되다** (太郎が警察に捕まる／捕まえられる)」のように、意味・語用論的状況によっては、有情者が主語となり、かつ動作主マーカーに「-hanthe」が用いられる<被動者主役化>タイプの例もある。

デモ隊が 警察に／によって 守られている

上記の例 28) のように「ci-ta」の受身文の場合は、動作主の積極的な働きかけが読み取れる文においては、動作主マーカーとして「-e uyhe」を用いても不自然な文となる。故に、例 25) のような文において、「-e uyhe」によってマークされる名詞句は、動作主として積極的な役割を果たしているものというよりは、背景化している要素であると考えられる。結局例 25) も、主語が何をされたのかという観点よりは、たとえば「子供は守られるべきものである」といった意味での、主語のおかれた状況に焦点が当たられた<脱他動化>タイプであるといえる。

以上のことから、韓国語における<脱他動化>タイプと<被動者主役化>タイプとの区分には、主語の有情性だけでなく、動作主マーカーも関与しており、有情主語受身文の場合にも、動作主マーカーとして「-e uyhe」のみを許容する場合は<脱他動化>タイプとして捉えることができる。この傾向は、受身形式「ci-ta」と「toy-ta」の用いられ方とほぼ一致している。

以上の考察を踏まえ、韓国語における受身形式の特徴をまとめると、以下のようになる。

タイプ	受身形式	「-i-, -hi-, -li-, -ki-」	「-ci-ta」	「toy-ta」	「pat-ta, tangha-ta」
脱他動化タイプ受身	○	○	○	×	
被動者主役化タイプ受身	○	×	△	○	
持ち主の受身	○	×	×	○	

#### 4. 韓国語の受身の構文上の問題をめぐって

前節までは、韓国語の受身形式と動作主マーカーが受身構文のタイプにどのように関係しているのかを見てきた。本節では、他言語との比較・対照を行う前に、韓国語の受身構文を論ずる際に問題となる、以下のような「持ち主の受身」と「二重主格構文」について簡単に述べる。

- 29) a. 칠수는 개한테 다리를 量렸다 / b. 칠수는 개한테 다리가 量렸다  
 チョルスは 犬に 足を 噛まれた / チョルスは 犬に 足が 噛まれた

上記の例 29) a,b は、それぞれ「持ち主の受身」と「二重主格構文」<sup>10</sup>の例である。従来の研究では、前者を「二重目的格構文」<sup>11</sup>、後者を「持ち主の受身」の一種<sup>12</sup>として捉えるといった観点からの分析が多かった。しかし、両者は主題を表すための接辞「-nun／ハ」の存在が大きく関係しているものの構文的には違いがあり、似て非なるものであると考えられる。この二つの構文の違いは、まず「持ち主の受身」は主語と述語節が主一述関係をなし、述語節全体からの影響を受ける「迷惑の受身（第三者受身）」に近いタイプに分析できる。

<sup>10</sup> 持ち主の受身に使われる形式は「-i-, -hi-, -li-, -ki-」「pat-ta, tangha-ta」のみである。「ci-ta」「toy-ta」は、持ち主の受身を許容せず、二重主格構文のみに使われる。

<sup>11</sup> 例 29a) に対応する能動文を「犬が太郎を足を噛んだ」のように想定する分析である。

<sup>12</sup> 例 29a,b) の両方を「持ち主の受身」とする立場。

- a. [개가 철수의 다리를 물다]  
 (犬が チョルスの 足を 噛んだ)  
 ↳ [철수는 TOP (개가 철수의 다리를 물다) ことを S 被る] S'  
 チョルスは (犬がチョルスの足を噛んだ)  
 ↳ [철수는 TOP (개한테 다리를 물리다) S] S'<sup>13</sup>

これに対して、「二重主語構文」は対格名詞句全体が主語となり、その後、属格名詞のみが、主語化（主題化）したものであると分析できる。よって、このタイプは持ち主の受身の一種ではなく、脱他動化を経て主題化した<被動者主役タイプ>の一種であると考えられる。

- b. [개가 철수의 다리를 물다]  
 (犬が チョルスの 足を 噛んだ)  
 ↳ 受身化 [ (철수의 다리가) SUB 개한테 물리다] S  
 チョルスの足が 犬に 噙まる  
 ↳ 主題化及びかき混ぜ [철수는 TOP 개한테 다리가 물리다 S] S'

## 5. 類型からの対照

以上、韓国語の受身について考察してきたが、本節では他言語との比較・対照の観点からの分析を行い、その結果からどのような知見が得られるかを検討する。その一環として、まず5.1では<脱他動化>タイプ中心のロマンス諸語と韓国語の類似点を論じ、その後5.2ではロマンス語・日本語と韓国語との相違点について論ずる。

### 5.1 脱他動化タイプの言語（ロマンス諸語）との類似点

<脱他動化>タイプのロマンス語と韓国語の比較からは、以下のような類似点を見出すことができる。

受身用法と自動詞用法の形態上の区別がつかないケースがある。

- 30) Se abrió la puerta 戸が開いた／戸が開けられた。  
 se open-3sg.PAST the door<sup>14</sup> (志波；2004)
- 31) Estas revistas se venden mucho これらの雑誌はよく売れる／売られる。<sup>15</sup>  
 this magazine se sell-3pl. much
- 32) a. 꽃봉오리는…中略… 산들바람에 흔들리고 있었다.  
 kkotpongoli-nun..... huntul-li-ko....  
 桜のつぼみは…中略…，そよ風にゆられていた。 (トット)  
 b. 버스를 타고 돌아갈 때보다도 차가 흔들리고  
 peosu-lul thako..... ..... .... huntul-li-ko....

<sup>13</sup> S: Sentence, TOP: Topic

<sup>14</sup> スペイン語の「Se」は、主語と同じものを表す再帰代名詞のようである。

<sup>15</sup> 東京大学 上田博人, スペイン語ガイドブック  
<http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/gakusyu/guia/dousi/saiki.pdf>

バスに乗って帰る時よりも 車が ゆれ,

(由熙)

上の例 30) と 31) はスペイン語の例であるが、スペイン語の再帰構文の受身用法は、自動詞用法か受身用法かが曖昧になり、受身用法が自動詞化用法の延長にあるとされる<sup>16</sup>。そして例 32) の韓国語においても、a) 「ゆられる (hantul-*li*-ta)」と b) 「ゆれる (hantul-*li*-ta)」のように、受身文と自動詞文が同じ形式によって表されている。このような形式上の曖昧性は、<脱他動化>タイプ中心の言語では、受身用法が自動詞文の欠如を補うために機能しているからであると考えられる。

## 5.2 脱他動化タイプの言語及び日本語との相違点

ここでは、韓国語における「持ち主の受身」の特徴を中心にすえ、ロマンス語・日本語との相違点について述べていく。

### 5.2.1 持ち主の受身の存在

「持ち主の受身」は、対格名詞句の存在と、結合価の減少が起こらないという点では、非情物が主語になり、項が1つ減るという<脱他動化>タイプとは、相反する。また、有情者が主語に立ち、動詞の語幹が表す行為を間接的に受けるという意味を表す受身文であるという点では、「迷惑の受身（第3者の受身）」に近いタイプである。この「持ち主の受身」の使用という観点からすると、ロマンス諸語には存在しない構文であるので<sup>17</sup>、韓国語は日本語の方に類似しているといえる。では、なぜ韓国語が持ち主の受身を許容するのかが問題である。この現象には、4節で述べたように主題を表すための接辞「ハ」（韓国語は-nun）の存在が深く関わっているのではないかと考えられる。つまり、持ち主の受身文の構造は、主語と述語節から構成される主-述関係として捉えることができ、その際、大きな役割を担う主題の「ハ」が韓国語にもあるので、持ち主の受身の構文そのものは、韓国語でも不自然なものではないということが理由として考えられる。

### 5.2.2 日本語との違い

上述のように、「持ち主の受身」の使用という点では、韓国語は日本語と共通しているが、韓国語には日本語はないような、以下のような制約が見られる。

33) 영희는	뱀한테	【자신의 다리를／*에 완전의 다리를】	물렸다
Yeonghi-nun	paym-hanthe	casin-uy tari-rul／aywankyeon-uy tari-rul	mul- <i>li</i> -eoss-ta
花子は	蛇に	【自分の足を／ペットの足を】	噛まれた
34) 철수는	태수한테	【자신의 애인／*친구의 애인을】	빼앗겼다.
Cheolsu-nun	Thaysu-hanthe	casin-uy ayin-ul／chinku ayin-ul	ppayas- <i>ki</i> -eoss-ta
太郎は	次郎に	【自分の彼女／親友の彼女を】	奪われた

<sup>16</sup> 志波（2004）

<sup>17</sup> 鷺尾（2004）では、「過去分詞+BECOME」形を使うゲルマン語派のドイツ語やオランダ語では、持ち主の受身は存在しないものの、使役構文がそれに類似した意味を表すと言及されている。

例 33), 34) から窺えるように、適切な状況が与えられれば自然な文として成立する日本語とは対照的に、韓国語における持ち主の受身文はある種の制約があり、対格名詞句が自分自身の所有物（人）の場合は自然な文として成立するが、自分自身のものでない場合には成立しない。言い換えれば、主語と対格名詞句との間で所有関係が認められなければならないという制約がある。上の例では、『花子は：足を=花子の足／太郎は：彼女を=太郎の彼女』のような関係では成立可能であるが、『花子は：ペットの足を≠花子の足／太郎は：親友の彼女を≠太郎の彼女』のように所有関係が認められない場合、持ち主の受身は成立しない。さらに、所有関係がはっきりと異なる以下のような例においては、日・韓の違いがより明確になる。

35) 철수는	순이한테	머리를 (철수 머리／ *순이 머리)	깎았다
Chseolsu-nun	suni-hanthe	meori-rul	kka-ki-eoss-ta
太郎は	花子に	髪を (太郎の髪／花子の髪)	切られた

例 35) において、髪の所有者が太郎の場合は韓国語でも成立可能であるが、花子の髪の場合は、韓国語では成立しない。では、日・韓両言語間に見られるこのような違いは、どのように説明できるのだろうか。その成立可否には、以下のような構文的違いが関係していると考えられる。

- 35') a. 太郎は花子に髪を切られた (太郎の髪) ← 花子が太郎の髪を切った
- b. 太郎は花子に髪を切られた (花子の髪) ← 花子が髪を切る

上の例 35'a) は典型的な持ち主の受身文であり、このタイプは韓国語においても成立可能である。一方、例 35'b) のようなタイプは、対応する文を【花子が髪を切る】のように想定することができ、事態の成立には関与していない外部のもの（上の例では「太郎」）が、新しく受身文の主語となる「迷惑の受身（第三者の受身）」として捉えることができる。そうすると、上の例で見られるような日・韓両言語間の違いは、「迷惑の受身」の成立可能性における両言語の違いを反映しているものであると考えることができる<sup>18</sup>。

以上その他言語との若干の比較・対照より、一般的に次のようなことが言えると思われる。

- ▣ 主題を表すための接辞「ハ／-nun」のある言語は間接受身を許容する。
- ▣ 受身用法と自動詞用法が曖昧になっている言語は、中立叙述的なく脱他動化>タイプが受身文の中心となる。
- ▣ <脱他動化>タイプ受身文中心の言語は、「迷惑の受身」を許容しない。すなわち、「迷惑の受身」の実現可能性における日・韓の違いは、<脱他動化>中心なのか、<被動者主

<sup>18</sup> 鷲尾（2004）では、上のような特徴について「関与・排除」という概念を使って詳しい分析がなされており、例 35'a) のような構文と直接受身をまとめて関与受身、例 35'b) のような構文と迷惑の受身をまとめて排除受身とし、日・韓両言語が共通するのは関与受身までで、両言語間では排除受身という範疇において境界を異にするとしている。排除という概念を用いると、両言語の違いは体系的に説明できるものではあると思うが、しかし、一方では、典型的な持ち主の受身（たとえば例 35'a）を直接受身とともに、関与受身というひとつのグループにまとめるこによって、韓国語と他の言語（日本語以外）との違いについて、十分な説明がなされているわけではない。

役化>中心なのが違いに起因するものであると考えられる。言い換えれば、<脱他動化>タイプは、動作主と対象という関係の中で、対象に何が起きたか、またはそのおかれた状況に焦点が当てられたものである。一方、<被動者主役化>タイプは、有情者を主語にして、それが行為を被り、心理的作用を感じるのか、という意味局面を重視したものであると考えることができ、日本語では、この意味局面<sup>19</sup>の拡張から「迷惑の受身」が発達したものであると考えられる<sup>20</sup>。それゆえ、項の減少を伴い中立叙述的な機能しか持たない<脱他動化>タイプ中心の言語では、そのような意味局面の拡張が許されないと考えることができ、その違いが日・韓の「迷惑の受身」の実現可能性に関係していると思われる。

## 6. まとめ

以上、本稿での考察内容をまとめると、次のようになる。

- i) <脱他動化>タイプに用いられる形式は「-i-, -hi-, -li-, -ki-」、「ci-ta」、「toy-ta」で、漢語動詞の一部に用いられる「pat-ta, tangha-ta」以外のすべての形式がこのタイプの構文に用いられている。
- ii) 「なる」の意味を持つ「ci-ta」、「toy-ta」形式が用いられる場合、非情主語文のみならず、有情主語文においても無標の動作主マーカーとして、「-e uyhe」が選ばれる。
- iii) <被動者主役化>タイプと「持ち主の受身」に用いられる形式は「-i-, -hi-, -li-, -ki-」、「pat-ta, tangha-ta」である。
- iv) 受身文の使用頻度、受身用法と自動詞用法が混在していることから、韓国語はロマンス諸語のようなく<脱他動化>タイプ中心の言語であるといえよう。
- v) <脱他動化>タイプ中心の韓国語が、「持ち主の受身」と「二重主語構文」を有するには、主題を表すための接辞「-nun (ハ)」が大きな役割をしていると考えられる。ただし、両者は構文的に違うタイプのものであると考えられる。
- vi) 韓国語の持ち主の受身文には、日本語にはないような制約が見られる（受身文の主語と対格名詞句の間の所有関係）が、それには、迷惑の受身の実現可能性の違いが関係していると考えられる。
- vii) 以上のことから、第5節で述べたような、類型論的観点からの一般化が考えられるが、この仮定についての具体的な検証は今後の課題にしたい。

<sup>19</sup> 動詞の語幹が表す行為の影響を有情主語が受ける側面と、事態の成立に関係していない新しい有情主語が事態全体から影響を受ける側面。

<sup>20</sup> 柴谷（2000）。

## 用例出典

[日本語作品]	[対韓訳本]
李良枝 1989『由熙』(由)講談社	김유동 1989 유희
黒柳徹子 1991『窓際のトットちゃん』(ト)講談社	김난주 2000 창가의 토토
宮本輝 1995『彗星物語』(彗)角川文庫	김현희 1993 사랑은 혜성처럼
宮部みゆき 1998『火車』(火)新潮文庫	박영난 2000 화차
柳美里 1997『家族シネマ』(家)文春秋	김난주 1997 가족시마
吉本ばなな 1996『とかげ』(と)新潮文庫	김옥희 1999 도마뱀

## 参考文献

- 志波彩子 (2004) 「2つの受身—日本語固有の受身と非固有の受身」 日本語文法学会第5回大会口頭発表  
松下大三郎 (1928/1974) 『改撰標準日本文法』 勉誠社  
\_\_\_\_\_ (1930/1977) 『標準日本口語法』 勉誠社  
鷲尾龍一 (2004) 「ヴォイス形式の類型と起源について」 日本語文法学会第5回大会  
Washio,R (鷲尾龍一) (1993) "When Causatives Mean Passive: A Cross-Linguistic Perspective", *Journal of East Asian Linguistics* 2. pp45-90  
권재일 (1992) 『한국어 통사론 (韓國語統辭論)』 民音社  
남기심·고영근 (1994) 『표준국어문법론 (標準國語文法論)』 塔出版社  
배희임 (1985) 『국어피동연구 (国語被動研究)』 高麗大学大学院 博士学位論文  
서정수 (1994) 『국어문법 (国語文法)』 뿌리깊은나무  
성광수 (1976) 「국어 간접피동에 대하여 (国語の間接被動について)」『文法研究会3』 塔出版社  
안중환 (1996) 「태범주에서 본 한국어와 일본어 (態の範疇から見た韓国語と日本語)」『日本文化学報2』  
안중환 (1997) 「韓国語の受動態と日本語の受動形態」『四国学院大学論集94』  
양정석 (1995) 『국어동사의 의미분석과 연결이론 (国語動詞の意味分析と連結理論)』 박이정  
우인혜 (1994) 「국어피동법과 피동표현 연구 (国語の被動法と被動表現の研究)」 漢陽大学  
이정택 (2000) 「피동성표현에 관한 연구 (被動性表現に関する研究)」 『한글 251』  
이의섭·임홍빈 (1983) 『국어문법론 (国語文法論)』 学研社  
최현배 (1937/1980) 『우리말본』 여덟 번째 김고 고침, 정음사